

第8章 緑化工法の生育確認判定について

第2章. 6. (6)「緑化等の措置後から効果を発揮するまでに時間を要する措置」については、その効果が確実に発揮されるよう以下のとおり取り扱うものとする。

1 目的等

緑化等の措置については、緑化工等の施工完了時において、植生の生育の確認が困難であることが多いため、一定期間を経過した時点で植生が目標に向かって推移しているか否かを確認することが必要である。

そのため、施工時期毎に緑化工法の成果の可否の判定（調査）時期を定めるとともに、工事完了時における緑化工法の可否の判定基準を定めるものとする。

なお、申請者は自ら緑化工法の成果について調査を行い、その調査結果を報告するものとする。

2 対象範囲

(1) 緑化工

造成緑地、法面・斜面その他敷地内への緑化措置とし、植生マット工、植生シート工、種子吹付工等の工法によるもの。

(2) 植栽工

造成森林への苗木の植栽

3 調査時期

- ・ 施工の時期によって植物の成長速度が異なるため、春期、夏期、秋期及び冬期施工に大別して調査時期を表1のとおりとする。
- ・ なお、植物の成長は施工箇所の状態により差が生じるため、適宜県等と協議のうえ、現場の条件等から判断して調査時期を表1とは別に設定しても差し支えない。

表 1

施工時期		調査時期
緑化工	春期（3月～5月）	・ 翌年5月
	夏期（6月～8月）	・ 翌年5月
	秋期（9月～10月）	・ 翌年6月初旬
	冬期（11月～2月）	・ 翌々年5月
植栽工	春期（3月～5月）	・ 翌年5月
	秋期（10月～11月）	・ 翌年6月初旬

4 調査方法及び判定基準

(1) 緑化工

- ① 調査は、工種ごとに調査点を設け実施する。
- ② 調査点の位置は、平坦～斜面、斜面上部～下部にわたり、偏りが無いように設定するほか、施工区域が複数に分かれる場合は、施工区域ごとに設定すること。なお、調査点の設定は緑化工施工完了時に行うこと。
- ③ 調査点及び施工区域全体において植被率等の調査を行い、表2の判定基準に沿って評価する。

表2

合格		・調査点ごとの植被率が70～80%以上である。 ・かつ、施工区域から10m離れると、全体が「緑」に見え、植被率が70～80%以上である。
不合格	経過観察	・調査点、もしくは施工区域全体の植被率が50～70%以上である。 ・かつ、1㎡当たり10本程度の発芽はあるが、生育が遅い。
	再施工	・調査点、もしくは施工区域全体の植被率が50%以下である。 ・または、種子が流亡して、植物の成立の見込みがない区域がある。

※ 経過観察となった場合、調査結果報告の3ヵ月後（3ヵ月後が11月～2月となる場合は、4月以降）に再調査し、報告すること。

※ 再施工となった場合、工法の変更も検討したうえで再施工を行い、施工時期に応じて 3 調査時期 のとおり再調査し、報告すること。

(2) 植栽工

- ① 調査は、植栽工の施工区域で実施する。
- ② 施工区域が複数に分かれる場合は、施工区域ごとに調査を実施すること。
- ③ 植栽木に占める枯死及び形状不良（以下、「枯死等」という）の割合（本数）を調査し、表3の判定基準に沿って評価する。

※ 「形状不良」とは、樹冠部の2/3以上が枯死したもの。また、通直な主幹を持つ樹木については、樹高の概ね1/3以上の主幹が枯死したものとする。

表3

合格		・不合格以外の状態で植栽木が生育している。
不合格	再施工A	・植栽木に占める枯死等の割合（本数）が、20%以上30%未満である。 ・施工区域内の50㎡以上100㎡未満、もしくは20%以下の面積、いずれか小さいほうの面積で面的に植栽木が枯死等の状態になっている。
	再施工B	・植栽木に占める枯死等の割合（本数）が30%以上である。 ・施工区域内の100㎡以上、もしくは20%を超える面積のいずれか小さいほうの面積で面的に植栽木が枯死等の状態になっている。

※ 植栽木1本当たりの面積は、1ha(10,000㎡)/1ha当たりの植栽本数 で算出される値とする。

- ※ 「面的に植栽木が枯死等の状態になっている」とは、連続して複数の植栽木が枯死等の状態になっていることを指す。
- ※ 再施工Aとなった場合、補植の3ヵ月後（3ヵ月後が11月～2月となる場合は4月以降）に再調査し、結果を報告すること。
- ※ 再施工Bとなった場合、植栽樹種の変更も検討した上で、補植の時期に応じ、表1で定める時期に表3のとおり再調査し、結果を報告すること。

5 調査結果の記録・報告

調査結果は、調査時期ごとに任意の報告様式に必要資料を添付の上、開発行為を行っている森林の区域を所管する環境森林事務所等に提出すること。

なお、必要資料について、緑化等の措置ごとに、以下の点について整理した資料とすること。

(1) 緑化工

調査点すべての緑化状況を写真で撮影し、報告書に添付する。

(2) 植栽工

造成森林の施工区域毎に、枯死等の植栽木の本数を記載する。

植栽木が面的に枯死等の状態になっている場合は、その面積を計測の上写真で撮影し、報告書に添付する。

※写真を撮影する際は、撮影日や調査箇所を記載した看板等とともに撮影すること。

参考様式

確認調査表（緑化工）

1. 調査年月日	令和○年○月○日	2. 調査者	社名 職名 氏名
3. 施工場所	別添緑化計画図のとおり	4. 調査箇所	別添調査平面図のとおり
5. 施工面積	・ 種子吹付工 ○○㎡ ・ 植生マット工 ○○㎡	6. 施工時期	（工法毎に記載） ・ 種子吹付工 令和○年○月～○月 ・ 植生マット工 令和○年○月～○月
7. 調査結果 緑化工	記載例 1. 種子吹付工 (1)A工区【合格】 植被率 ○% 1)調査点① 植被率○% 2)調査点② 植被率○% (2)B工区【経過観察】 植被率 ○% 発芽本数（1㎡当り） 約30本 1)調査点① 植被率○% 2. 植生マット工 (1)C工区【再施工】 植被率 ○% 一部背面土砂が流亡し、マットが浮いている		

※緑化計画図、調査平面図、写真及び補足資料等は適宜別紙として添付する。

参考様式

確認調査表（植栽工）

1. 調査年月日	令和○年○月○日	2. 調査者	社名 職名 氏名
3. 施工場所	別添緑化計画図のとおり	4. 調査箇所	別添調査平面図のとおり
5. 植栽樹種 植栽本数 植栽面積	・スギ○本 ○○㎡ ・コナラ○本 ○○㎡	6. 施工時期	（樹種毎に異なる場合はそれぞれで記載） ・スギ 令和○年○月～○月 ・コナラ 令和○年○月～○月
7. 調査結果 緑化工	記載例 ・スギ A工区 合格 枯死等本数/植栽本数 20/1400 1.4% ・コナラ B工区 再施工A 枯死等本数/植栽本数 400/1500 26.7% 面的な枯死等の面積 80㎡（植栽面積0.75ha）		

※緑化計画図、調査平面図、写真及び補足資料等は適宜別紙として添付する。